

## 緑内障画像診断の進歩

緑内障は中途失明原因の第一位であり、眼科診療において最も重要な疾患の一つである。緑内障は大きく分けて「開放隅角」緑内障と「閉塞隅角」緑内障がある。沖縄県においては、日本緑内障学会、久米島町と琉球大学が行った大規模疫学調査「久米島スタディ」によりその40歳以上の住民の有病率が明らかにされ、開放隅角緑内障は4.0%、閉塞隅角緑内障は2.2%であることが明らかにされた。開放隅角緑内障は本土と同程度の頻度であるにも関わらず、閉塞隅角緑内障は本土（岐阜県）の0.6%に対して実に3.7倍の頻度である。沖縄には閉塞隅角緑内障が多いことが示されたわけである。沖縄県に限らず、開放隅角緑内障は世界中で最も多い病型であるが、視力障害の原因としては閉塞隅角緑内障の方が5倍の頻度であることも明らかになった。

琉球大学医学部附属病院眼科では、超音波生体顕微鏡（UBM）を用いて閉塞隅角緑内障の診断や病態の解明を行ってきた。加えて、保険適応外の検査として前眼部光干渉断層計（前眼部OCT）も導入している。前眼部OCTは前眼部三次元画像解析検査として先進医療の枠組において緑内障、角膜ジストロフィー、角膜白斑、角膜変性、角膜不正乱視、水疱性角膜症、円錐角膜、水晶体疾患、角膜移植術後に対して保険診療と併用する自費診療で行う事が可能である。

前眼部OCTは数秒で前眼部（角膜、隅角、虹彩、水晶体の一部）の立体画像を得ることが可能である。沖縄に多く失明しやすい疾患である閉塞隅角緑内障の診断に有効であると考えている。当院では現時点（平成29年3月）でこの検査の自己負担は3000円である。従来の検査に加え、前眼部三次元画像解析検査が有用であると考えられる場合にはこの検査の追加をお願いすることがあります。今後は、沖縄に多く失明しやすい疾患である閉塞隅角緑内障の発症予防にこの検査を県内に普及させることを目指しています。

（眼科医師・酒井寛、與那原理子）

問い合わせは医療機関からの診療情報提供書を本院医療福祉支援センター（シエント）まで。電話098（895）1371、FAX098（895）1498。

